

石狩川流域委員会（第10回） 議事要旨

■日 時：平成30年12月25日（火曜）13:00～15:00

■場 所：北海道開発局研修センター 1階会議室

■出席者：黒木委員長、中村副委員長、井上委員、上田委員、定池委員、清水委員、平澤委員、山田委員

■議題

- ・石狩川水系豊平川河川整備計画の見直しについて

■議事要旨

(1) 【資料-1】①石狩川流域委員会について、②流域の概要

- ・幌平橋上流側の左岸を破堤点とした浸水想定が示されているが、破堤点を変えたケースを示してほしい。(委員)

→当該破堤点は札幌市中心部への被害が大きいと想定している点であり、様々なパターンも次回お示ししたい。(事務局)

- ・浸水想定区域図における浸水深について、0.5～3.0mではなく、詳細に示した方が実用的と思われる。(委員長)

- ・破堤しても、氾濫水が札幌市中心部に流れないように工夫も考えておくべきではないか。(委員)

- ・国レベルでも各種議論がなされているので、越水しても破堤しない堤防構造も検討に値するのではないか。(委員)

- ・豊平川は明治時代に2回破堤し、茨戸川まで氾濫水が達したという話もある。そういった状況も示した方がよいのではないか。(委員長)

- ・排水機場や貯留施設の稼働実績を教えてほしい。(委員)

- ・豊平峡ダム及び定山溪ダムはそれぞれどのような貯まり方があるのか。ダムの能力について教えてほしい。(委員)

→排水機場や貯留施設については国で管理していないものもあるが、整理して次回お示しする。(事務局)

- ・床止めの設計基準について教えてほしい。また、河岸や高水敷の侵食対策である高水敷や堤防の保護はどういう基準で実施しているのか。(委員)

→一般的な設計基準があり、河道の状況を踏まえて検討を加えている。(事務局)

- ・基準地点雁来について、基本方針では河道配分流量は2,000m³/s、現行整備計画の目標流量は1,900m³/sであるが、当該地点の流量のみを基準に議論するのではなく、上流側の流速についても考慮すべきではないか。(委員長)
- ・石狩川本川から茨戸川等への背水の影響を教えてください。(委員)
- ・大都市である札幌市内の河川でサケが産卵している状況は誇るべきこと。床止めにも魚道があり遡上環境は良好だが、未だにサケが遡上しにくい箇所もある。誇るべきところと改善すべきところを確認することが重要。(委員)
- ・豊平川の水は扇状地への涵養水としての役割が大きいと思っているが、清流ルネッサンスⅡについて、渇水時の導水状況を教えてください。(委員長)
- ・水防活動をどのように活性化していくか。雨の降り方が変わってきている中、従来の水防活動ではなく、避難誘導を重視する形に変わっていくことも考えられる。(委員)
- ・プッシュ型配信について、配信実績があれば教えてください。また、配信は水位情報等だけではなく、避難する方向など、きめ細やかな配信が必要ではないか。(委員)
→札幌開発建設部管内ではH30年5月から運用を開始し、7月上旬の降雨において発表した実績がある。配信情報は、水位情報が主であるが、詳細について確認する。(事務局)
- ・豊平川の直轄区間より上流側では、河床が低下し岩盤が露出しているとともに、その露岩箇所が上流側に進行している。(委員)
- ・五輪大橋付近から露岩しており、下流側も露岩したらサケの産卵床にも影響する。また、既存のインフラにも影響を及ぼすことから、河床の安定化について問題の共有が必要である。加えて、豊平川の砂州の樹林化及び樹木管理の状況も確認したい。(委員)
→豊平川では上流にダムや取水施設があるため、流域面積の小さい豊平川支川から土砂が供給されていると考えられる。(委員長)
→豊平川上流部の河床低下については課題として認識しているが、今後の対応をどうすべきか検討途上。(事務局)

(2) 【資料－1】③近年の水害発生状況について、④近年の法改正・答申等、⑤豊平川河川整備計画の見直しの必要性

- ・農業のほか、林業・水産業についても重要性を認識してほしい。(委員)

- ・発寒・創成川等の合流部付近は、泥炭地であり恐らく今も地盤沈下が続いているところと
思われるが、下流部の安全性について教えてほしい。(委員)
- ・近年、豊平川では水害による大きな被害がなかったように感じるが、ダムの効果か教えて
ほしい。(委員)
→ダムの調節は一定の効果を示していると考えている。(事務局)
- ・年超過確率 1/80 規模ではなく、重要なところはもっと強固な堤防等を考えてもいいので
はないか。(委員)
- ・整備目標を年超過確率 1/80 規模とした根拠を教えてほしい。(委員)
→現行の河川整備計画のハード対策が進捗し、基本方針までの次の段階として、全国の 1
級水系の目標を踏まえて比較的安全度が高いところで考えている。(事務局)
- ・外国人観光客も増えていることから、洪水被害が発生した場合に外国人が直接受け取れる
多言語の情報を出していくことも必要。また、数日前から鉄道を運休するなど、洪水時に
人が動かない仕組みが他の地域では成熟しており、北海道でもそのような対策を講じる
ことも考えられる。(委員)
- ・災害時に行政が公式な SNS で流言飛言を否定する情報発信が必要ではないか。(委員)
- ・西日本豪雨において多くの方が水害で亡くなった岡山県真備町について、当該地域はハザ
ードマップの氾濫域も浸水調査の結果も一致していたが、あのような惨事となった。また、
西日本豪雨や胆振東部地震では山裾で多くの方が亡くなったが、札幌市にも土砂災害の
危険性がある箇所が沢山ある。(委員)
→ハード整備のほか、どのようにソフト対策に繋げるかが課題であり、関係機関と連携し
て参りたい。(事務局)
- ・越水しても破堤しづらい堤防の整備など、これまでと違った適応策も考えていく必要があ
る。(委員)
- ・将来計画としてダムがあったと思うが、完成までの期間への対応の議論は必要。(委員長)
- ・本日の議論を踏まえ、豊平川河川整備計画を見直す方向で議論を進めていきたい。(委員
長)

(3) その他

- ・次回の流域委員会は 1 月中を予定。(事務局)